末梢性T細胞ﾘﾝﾊﾟ腫　（再発・難治性）
Pralatrexate療法

ｺｰｽ目

患者ＩＤ：　@PATIENTID　　患者氏名　：　@PATIENTNAME

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(㎡)
SHEIGHT01_Do	WHEIGHT01_Do	#VALUE!

投与ｽｹｼﾞｭｰﾙ：　１コース：　49 日間

使用薬剤： プララトレキサート：ﾌﾟﾗﾗﾄﾚｷｾｰﾄ 20mg／V

注意： 適正使用ガイドに準じる

※　重度の腎機能障害患者では、本剤の血中濃度が上昇することが報告されているため、本剤の減量を考慮するとともに、患者の状態をより慎重に観察し、有害事象の発現に十分注意すること。

※　本剤投与前に以下の基準を満たすことを確認すること。

項目	程度
粘膜炎	Grade1以下
血小板数	初回投与時は10万/μL以上、2回目投与時以降は5万/μL以上
好中球数	1,000/μL以上

※ 本剤の投与により、副作用が発現した場合には、本剤を休薬、減量又は投与中止すること。なお減量後、再度増量はしないこと。

投与量：

薬　剤	投与量	計算値	投与量(mg)	投与日
ﾌﾟﾗﾗﾄﾚｷｾｰﾄ	30 mg/㎡	#VALUE!		1.8.15.22.29.36

<<　タイムスケジュール：開始時刻　>>

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

初回投与**10日以上前**に

① パンビタン末 2ｇ/日（葉酸 1.0mg/日）毎日内服。
ﾌﾟﾗﾗﾄﾚｷｾｰﾄ投与終了日から30日後までは葉酸の投与を継続。

② メチコバール注500μｇ２Ａ 筋注。以後、1クール（7週間）毎のday1に１回投与。
ﾌﾟﾗﾗﾄﾚｷｾｰﾄ与中は投与を継続。

Day1,8,15,22	1月1日	(土)	1月8日	(土)	1月15日	(土)	1月22日	(土)
29,36	1月29日	(土)	2月5日	(土)				

0:00　①　生理食塩液 50mL　+ デキサート 6.6mg
15分で点滴静注

0:15　②　生理食塩液 30mL　＋　ﾌﾟﾗﾗﾄﾚｷｾｰﾄ　0.0mg
※調製時は、生理食塩液20mLを抜き。全量を**30mL**とする。　*0.0mL*
全開(3～5分)で点滴静注

0:30　③　生理食塩液 50mL
フラッシュ

REFERENCE

Dai Maruyama,Hirokazu Nagai,Yoshinobu Maeda et al;Cancer Science 2017
Phase Ⅰ/Ⅱ study of pralatrexate in Japanese patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma
Owen A. O'Connor,Barbara Pro,Lauren Pinter-Brown, et al;J Clin Oncol 29:1182-1189 2011
Pralatrexate in Patients With Relapsed or Refractory Peripheral T-Cell Lymphoma:Results From the Pivotal PROPEL Study

2017年10月度化学療法プロトコール審査委員会承認：2017年10月16日 迅速審査承認(2017年9月21日)